

## 2024 JUA/EAU Resident Programme 参加報告

佐 藤 慧 吾 (東京大)

今回私は、2024年4月5日～8日にフランスのパリで開催された the 39th Annual EAU Congress (EAU24) のJUA/EAU Resident Programmeに参加させて頂きましたので報告いたします。

私にとってEAU24は初めての海外学会への参加となりました。オリンピックを前に活気づくパリの街で、多大なサポートを受けながらEAUへ参加できることとなり、事前準備から大変興奮した次第です。

今回学会ではEAU-JUA joint sessionをはじめ、Plenary Session, Game Changing Session, Live SurgeryといったEAUの目玉となるSessionに参加いたしました。EAU-JUA joint sessionでは、腎癌治療や腎移植がトピックとなっており、活発に議論がなされておりました。個人的にはロボット支援下腎移植術(RAKT)の題目が興味深く、最新の冷阻血デバイスやARイメージング技術によってRAKTが問題なく行うことができているということに驚きました。Plenary Session/Game Changing Sessionでは前立腺癌治療について聴講しましたが、前立腺癌診断における単純MRIに比した造影MRIの必要性について、神経温存等の術式選択において差がありうるが、診断能力に大きな差はないという結論が興味深いものでした。Live Surgeryでは、いくつかの手術が平行してライブ中継されており、日本ではできない体験に大変刺激を受けました。レクチャーや質疑応答をこなしながら手術を進行させる術者の先生の姿には、確か

な技術力と強靱なメンタルを画面越しに強く感じました。

今回、幸いにも演題発表の機会をいただいた為、「Prognostic significance of body mass index in patients with metastatic renal cell carcinoma treated with first-line therapies」という演題名でポスター発表をさせていただきました。多くの聴衆の先生を前に拙い英語で行う発表や質疑応答は、私を硬直させるには十分でしたが、これもまた成長する上での大変貴重な経験になったと思っております。次回以降への反省とし、ぜひ今後もチャンスある限り演題を通したいと意欲を掻き立てられました。

本プログラムでは、同世代の泌尿器科医と交流できたことも非常に価値あるものとなりました。同様のプログラムで参加した上川先生・松島先生とは同じ宿で食事し、学会後に観光したり、各大学の特色を話しあったりと、貴重な思い出を共有させていただきました。同世代の同士との関わりは、今後のモチベーションにも繋がったと感じます。

最後となりますが、本プログラムに参加させていただく機会を与えてくださいました、JUA、EAU両学会関係者の皆様、このような素晴らしいプログラムの御提案から御推薦までいただきました久米教授に、この場を借りて御礼申し上げます。今後もこのプログラムを通じて若手医師が国際的に交流することで、EAU・JUAが共に発展していくことを祈念いたします。

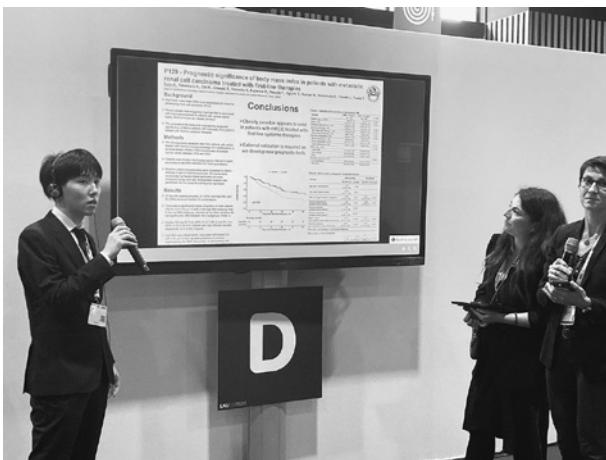


写真1 発表する筆者



写真2 会場にて 右より筆者、上川先生(名古屋大)、松島先生(長崎大)